國際文化學部だより

No.11　発行／2005年8月25日　山口県立大学国際文化学部　〒753-8502 山口市桜畠3丁目2番1号
（代表）TEL 083（928）0211　FAX 083（928）2251　http://www.fis.ypu.jp

国連大学グローバルセミナーの開催

国際文化学部長　安野 早己

「国連大学グローバルセミナー第一回島根・山口セッション」が無事終了してほっとしている。8月6日から9日まで山口県立大学新講堂と秋吉台国際芸術村を会場に開かれたセミナーには全国から48名の大学生・社会人が参加して熱い討論を展開してくれた。本学部からも留学生3名を含む11名の学生が参加した。

「国連大学グローバルセミナー」は、日本における唯一の国際機関である国連大学が、若い人々のあいだに国際連合の活動の核となるグローバルな問題についての意識を覚醒する目的で開かれている。具体的には、日本各地で大学生・大学院生・社会人の希望者を集め、その時代・場所にふさわしい国際的課題を英語・日本語で討論するというかたちをとっている。3泊4日の日程で、最初に国連に係る指導的立場の人と日本の代表的な研究者に基調報告をしてもらい、その後専門家のスピーチを織りこみながら、ゼミナール形式で意見交換し、最後に参加者がグループで意見発表するという形式になっている。

このセミナーは日本をいくつかのブロックに分けて（最近では韓国やハワイを含む）、それぞれの地名を冠したセッションとして開かれている。本事業は「中国・四国・九州」ブロックに対応するもので、平成12年以来島根県立大学が単独で「島根セッション」として5年間開催してきた後を受けて、山口県立大学が島根県立大学と共同で「島根・山口セッション」として開催するものである。

第一回島根・山口セッションのテーマは、「世界遺産 ― 時空を越えた人類の懸け橋」であった。第一日目には、平岡敬前広島市長による「世界遺産の意義とは ― 原爆ドームからのメッセージ」と、石澤良昭上智大学学長による「アンコール遺跡と国際協力」という基調講演が行われた。この講演は一般公開され、約400名の市民の参加を得た。第二日午前には「世界遺産はなぜ必要か」、同午後には「文化、社会と世界遺産」、第三日午前には「自然、環境と世界遺産」というセッションが行われた。第四日には、受講生が五グループに分かれて、研修の成果を発表し、岩田学長より、ひとりひとりに修了証が手渡された。

私どもが開催を引き受けた目的は、山口県立大学の基本理念のひとつである「国際化への対応」を具現化することによって、大学ならびに大学院国際文化学研究科と国際文化学部の存在を広く社会にアピールすることにあった。国際文化学部はその教育と研究に地道な努力をかさねてきたが、創設12年を経た現在、このセミナーを開催することによって、アカデミックな成熟度を全国の大学と地域社会に示すことができたのではないかと思う。また、このセミナーは、本学学生にとっても国際的な視野の獲得、コミュニケーション能力の上達など、日常では得られない貴重な実践の場となった。

国連大学グローバルセミナーにて講師に質問する受講生

国際交流

「ここ」は世界とつながっている

大学企画広報室副室長（国際化担当）
「異文化交流論」担当
助教授　岩野 雅子

大学の４理念の一つに「国際化」があります。人・大学・地域を世界に拓き、グローバルな視野をもって地域社会に貢献し、また地域文化のバックボーンをもって国際社会に活躍する人材を育てようという理念です。大学・学部では中国、韓国をはじめ、カナダ、スペイン、アメリカの大学と学術協定を結んでいます。１年間の交換留学、夏休みの語学研修、学生活動の交流などを通して、こちらの学生があちらへ、あちらの学生がこちらへと大学間を行き来し、「ここ」と世界がつながっているという感覚を味わうことができます。「英語で開講される授業科目群」では交換留学生と日本人学生が英語で討論する場面が見られ、中国語やハングルは手の届く距離にある身近な言語として定着しています。国際文化学部では文化交流事業を積極的に行い、留学生との交流会や多言語スピーチコンテストなどを開催して学生の国際的な感覚を養う機会としています。県内外のスピーチコンテストでの成績優秀者に本学部生が多いのは、学生・教員相互の努力の積み重ねによるものです。国内外で国際的な活動に従事する「地域実習」に参加し、ヨーロッパやアジア、アフリカ、北アメリカなどの様々な地域に出かけ、国際機関やＮＧＯなどの活動現場を自分の足で歩いて考え、考えたことを実行にうつせる学生も増えてきました。国際化の種が芽吹くには時間がかかりますが、10年間にわたって地に蒔き続けた種があちこちで花を咲かせ始めているといった嬉しい便りも卒業生から届き始めたこの頃です。

多言語スピーチコンテスト

カナダ　ビショップス大学からの最初の留学生

イブ・ランドリー

私はイブ・ランドリです。私はカナダから来ました。何年か前、私は日本と日本語に興味を持ちました。去年私は日本に来るために準備をしました。私はたくさんのことを犠牲にしなければならなかったので、難しかったです。でも、３月私は日本につきました。

日本について、気づいたことは日本はとても暑いということです。私は、成田で迷子になりました。でも何時間か後には六本木のホテルの部屋にいました。それから、日本語は私にとって難関でした。日本人はとてもやさしいイメージでした。日本人は私にも優しかったです。はじめて来たときから、私は歓迎されていると感じました。

私は、来てからたくさんのところへ行きました。私のホストファミリーは長野と宮島に連れて行ってくれました。それらは一番の思い出です。また、私は萩に釣りに行きました。でも、その場所は秘密です。私は、山口県立大学の皆さんに助けていただいていることに感謝しています（原文日本語）。

山口県立大学とビショップス大学とのあいだに学術交流協定が結ばれたのは、2002年４月16日です。以後本学から毎年１名の学生が交換留学生として派遣されています。また、本学部日本語教員養成課程で学んだ学生が日本語教育アシスタントとして同大学で教えています。

ニュージーランド日本語教師アシスタント留学を経験して

４年　吉岡 春奈

私は2004年の３月から12月までの９ヶ月間、ニュージーランドの首都ウェリントンにあるQueen Margaret Collegeという私立の女子学校で日本語教師の助手として留学していました。この学校は小・中・高一貫教育で、生徒数は約670人と少人数です。その為生徒は伸び伸びと勉強、スポーツや文化活動等興味ある分野を思う存分伸ばすことができる、環境に恵まれた学校です。

さてこの国における日本語学習者は、残念ながら近年減少傾向にあります。学校の授業においても学生数は高学年になるに従い減少傾向があり、授業では常に生徒達にどうやって日本に興味を抱かせるかということが重要なポイントとなります。私も授業で生徒に日本語を教える時は、生徒が大好きな日本の人気キャラクター（ハローキティー・ポケモン）や日本文化の写真を多く取り入れて「日本が大好き！」と言ってくれるような授業をするよう心がけました。彼女達の屈託のない笑顔は常に私の元気の源で、英語の壁を感じたりホームシックになったりすることなど殆どありませんでした。

今回の留学を通して得たもの全てを文字で表現することは困難ですが、色んな面で学んだことを生かし、将来に繋げていくつもりです。お世話になった全ての方に感謝の意を表します。

職員室にて同僚と

スペイン・ナバラ州で勉強してみませんか

教　授　安渓 遊地

フランシスコ・サビエルのご縁で、山口県とスペインのナバラ州が姉妹縁組をしてから今年で３年目。私は、大学間の交流を進めるため、４月末から５か月間、ナバラ州立大学に派遣されています。この九月からの一年間、県立大の学生三人がナバラで学ぶための下準備と大学間の共同研究の開拓が主な仕事です。まずはスペイン語の勉強から始めています。毎朝二時間の初級と、週二回の中級、それにもうひとつの言語バスク語が週一回。どちらも発音は日本人には割合簡単で、バスク語は語順が日本語と同じなので不思議です。

ナバラは風力やワラを活用して、わずか10年で自然エネルギー発電の割合が70％になった、世界の先進地です。山口では始まったばかりの農家民宿の取り組みも盛んで、500軒以上あるそうです。県立大学が提携している徳地地区との相互交流が実現すると面白いな、と夢をふくらませているところです。州都パンプローナは、ひとりあたりの緑地面積がヨーロッパ最大という美しい町で、食べ物は美味しく、人々はとても親切です。大学の授業についていくのは大変ですが、とった単位は県立大の単位になります。あなたもナバラで学んでみませんか。

スペイン語の授業風景

スタディーツアーで現実を学ぶ

４年　徳本　絢

スタディーツアーはより現実として問題を捉え、学ぶよい機会であると思います。私が参加したスタディーツアーでは様々な国際機関やNGO、現地の大学に訪問する機会がありました。このような機関の現場の方からブリーフィングを受け、実際に現場を案内していただくと多くの刺激を与えられます。

例えば、UNHCRのタイ事務所を訪問したときはインドシナ半島の難民について説明をしていただいただけでなく、事務所の玄関辺りでは難民申請の受理を待っている多くの人々を見かけました。カンボジアでアンコール遺跡調査団の事務所を訪問したときは、一般公開されていない国宝級の仏像が床に並べられた部屋に案内していただきました。また、発掘・修復をしている遺跡では現場担当者の方から詳しい説明もしていただきました。

このような機関に訪問するだけが勉強とは限りません。この国の人々がどのような暮らしをしているのかを感じ取るのも一つの勉強だと思います。スタディーツアーに参加すると五感で感じるものすべてがよい刺激となって大学生活に役立ってきていると思っています。

アンコール遺跡にて

サムルノリ、慶南大学校を訪れる

サムルノリサークル部長
３年　洪　美律

↑野外サムルノリ公演会

←前夜祭ステージ本番前のショット

私たちサムルノリサークルは学術交流の一環で５月17日韓国慶南大学校の学園祭に出演してきました。サムルノリは韓国の民族打楽器を演奏するサークルで、今回貴重なチャンスを得られ、念願の韓国公演を果たすことができました。慶南大に到着すると、日本語の話せるホームステイ学生らとの対面会、慶南大のサムルノリサークルとの交流会や相互の練習の見せ合いなどを行い、初日から非常に充実した日程でした。驚いたのは慶南大サムルノリサークルにわが国際文化学部４年の佐達京子さんも所属していて、現地の学生らと馴染んでいたことです。また、慶南大のサムルノリサークルは「連合」という形をとっており、各グループをまとめると50人以上は在籍しているという大規模な組織を成していることに驚きました。この後は韓国の伝承遊びをともに楽しみながら初日のプログラムを終えました。さて、翌日は本番です。３日間の大学祭のうち、最も盛り上がりを見せる前夜祭の大ステージにて前座を飾ることとなったわが県大サムルノリは緊張を隠せませんでした。というのも、慶南大学校でのサムルノリ演奏は伝統的なステージなのだそうで、出番は幕開けかトリか、というのが毎年のスタイルなのだそうです。４万人の観客を動員できるアリーナ並みのグラウンドでのステージです。部員一同生まれて初めての体験です。しかし、今回、私達が公演を行うということで、慶南大のサムルノリサークルの皆さんが公演出来なかったという事実を知り、何ともいえない申し訳なさを感じました。だから彼らの分も含めて県大サムルノリが頑張らなければ！という闘志に部員一同燃え、今までで最高のエンターテイメントを披露できるよう励みました。もともと、日本の学生が演奏することを本国の方がどう受け止められるかというところにも根本的な興味があったので、張り切って演奏させて頂きました。前夜祭ステージの他、慶南大のサムルノリ公演会にも参加させて頂き、大人数での演奏を間近で見ることが出来ました。その時に私達が見て感じたものはそのまま水無月祭で生かすことができたと思います。これからの県大サムルノリサークルとしてよりレベルアップできるきっかけとなった非常に貴重な体験でした。ありがとうございました。

74歳の社会人入学
―県立大学にどうして入学したか―

2年　山本　豊

私には３人の息子がいます。長男は宇部中央高校の数学教師、次男は警備会社勤務、三男は愛知県で豊田系の会社でエンジニアとして勤務しています。家内はかれこれ15年以上前に他界しています。３人の息子達をそれぞれ一人立ちする迄育て上げ、３人目の息子が大学を卒業し、結婚して、勤め始めたので学費を送る心配がなくなり、ここらで一寸一休みさせてもらおうと思って山口高校の定時制を希望して、幸いにも合格しましたので入学した訳です。

実は終戦直後に結核を病気しまして一寸危なかったのですが何とか一命を取り留めて現在に到っております。その定時制に入学する迄に半年間位時間の余裕がありましたので、道場門前の本屋さんに行きましてＮＨＫのラジオ講座の英語のテキストを買いに行った際に店頭に“96才で大学に合格する”という歌川豊彦さんの出版された本が出ていましたので翌日買いに行って求めました。

歌川さんは96才、自分は70才になったばかりであったので二回り自分が若いから大学まで進んでみようと思ったのがきっかけです。１冊の本との出会いが私の人生の指標になった訳です。歌川さんは戦時中は会社の社長をされた経験を持っておられ、又その当時は日本で唯一人・歌川派の浮世絵の師匠さんでもありましたが去年不慮の事故で亡くなられたとかで非常に残念であり深く哀悼の意を表します。

鈴木隆泰助教授 学会賞受賞！！

【受賞した賞】
日本印度学仏教学会第四十六回学会賞
【日本印度学仏教学会】
平成13年に創立五十周年を迎え、現在の会員は2,600名余りと、人文系では国内最大級の学会
【受賞対象となった研究】
Rites and Buddhism: A Perspective from the *Sarasvatī-parivarta* in the *Suvarṇaprabhāsa*, *Journal of Indian and Buddhist Studies* #104, 2004.
【研究内容】
近代仏教学が描き出したインド仏教の姿は、極めて理性的・合理的な性格を有するものでした。しかし最近、インドにおいても仏教は多彩な儀礼と関わっており、決して哲学的・理性的・合理的な側面のみからは捉えきれないことが徐々に明かになってきました。本研究はそれらを踏まえながら、『金光明経（こんこうみょうきょう）』という大乗経典を中心に、そこに表れた教義と儀礼の諸相を精査することによって、紀元４～７世紀におけるインド仏教の実像、特にインド大乗仏教の実像に迫ることを試みたものです。『金光明経』には、従前の仏教理解の枠内には収まりきれない儀礼的諸要素が多く見られます。従来の研究はそれらを「仏教のヒンドゥー教への同化・吸収の徴候」「仏教の変質・堕落の徴候」と見なしてきましたが、本研究がそれらの諸要素を「大乗仏教の伝統仏教からの自立の模索」、そして「仏教のヒンドゥー教からの自立の模索」を示すものと評価したことは、本研究の持つ最大の特徴であり成果であると言えます。これからも仏教の実像に迫る研究を続けていきたいと願っています（鈴木　隆泰 記）。

新任の挨拶

助教授　金　恵媛

４月から県立大学に来ました金です。担当科目は、韓国社会論とハングルです。

私の研究テーマは高齢化社会における世代間関係、ジェンダー問題などについての日韓比較です。少子高齢化は日韓両国に顕著な社会現象として注目されていますが、進展時期の違い及び関連する諸問題の類似性などから日韓比較研究がとくに期待される分野であり、将来的にはゼミの皆さんとも共同研究を進めていきたいと考えています。そして「韓流ブーム」・「ニッポン・フィール」といった近年の日韓交流の動きについても研究をはじめました。そもそもは世代間関係への関心からはじめたものですが、韓国との交流活動を積極的に展開している山口に着任したことを機に日韓交流へも視野を広げるようになりました。私が担当する専門演習及び韓国社会論の授業は以上のような研究課題を中心に展開しています。

ハングルの授業では実用的な表現の習得と、そのことばを使用している韓国人・韓国社会への理解度を高めることを狙いとしています。そのための授業方法のひとつとして各種検定試験へのチャレンジを積極的に支援しています。たとえば、去る６月12日に行われた第24回「ハングル」能力検定試験に際しては本学に準会場を設けることができ、延べ21人が受験しました。その結果、上級クラスの全員が合格し、中級クラスでもおよそ半数が合格しました。初めての試みであったうえに準備期間が１ヶ月あまりと短期間であったにもかかわらず良い成果が得られました。これは願書提出から受験までの期間に行われた勉強会で皆さんが頑張った結果であり、その頑張りはつぎの活動へと発展していくものと期待しています。

日韓交流、高齢化社会問題、ハングルなどに興味のある方は一度韓国社会論研究室をのぞいてみてください。

卒業生近況

キャリアは自分でつくる

(株)ファーストリテイリング　ユニクロ勤務　**坂元　紘子**（2005年卒業）

山口から鹿児島へ。卒業し、５ヶ月が経とうとしています。３月１日入社だったため、社会人としての人生は慌しくスタートしました。学生と社会人の立場の違いや、初めて親元を離れ生活をすること、自社はとにかくスピード・切り返しの早い会社で、入社して間もない社員に対し、要求されるタスクは非常に大きく、この数ヶ月間でさえ限界を感じ何度も辞めようと思いましたが、良い出会いにも恵まれ、現在は、在庫コントロール・金銭管理・人員配置スケジュール・売り場レイアウトなどといった業務を行っています。

入社を決めた理由の一つに、自社は「個人の成長」を大切にする会社だということがあります。出張や研修の機会も多く、最近では女性が結婚や出産をしてもキャリアを犠牲にすることなく働ける組織を確立しようと、ウィメンズプロジェクトというものを立ち上げました。「獲得可能性＝能力×マインド×環境」どれかがゼロであれば、可能性はゼロになってしまいます。求められるものは大きいけれど、考え方を変えれば会社として新人に任せるというリスクがあってでもそれだけ早い独り立ちを望み、チャンスを与えているということです。今はまだ、ベースとなる業務を必死にこなしていく日々ですが、将来的には海外事業部や東京本部での職種に携わることができればと可能性を信じ、取り組んでいます。

ファンの多い営業マン目指して

日鋼ステンレス（株）勤務　**佐藤　慎也**（2004年卒業）

自分の「ファン」はどのくらいいるでしょうか？私は大阪でステンレスのパイプを販売しています。車などのセールス営業とは異なり、商品自体他社と差がないため会社・自分を売り込むことで買っていただく形です。商品自体差がないという事は、お客様の立場にたった対応やクレームに対する迅速で的確な対応などのサービスによって他社と差をつけ、お客様に会社、そして自分を選んでもらう必要があります。未知の業界に飛び込み不安はありますが、各々が利益に参加し、お客様が自分の「ファン」になってくれることで注文が増え、何百・何千万という金額を動かせることは魅力的です。また、その分責任も大きいのでやりがいを感じています。

２年目になり、お客様の指名も増えてきました。負担は大きいですが、選んでもらえる喜びは格別です。さらに指名が増えるように日々全力投球です。在学中は、国際交流や数々のイベントに参加し人と接することの楽しさや大切さを学びました。その経験は今の仕事でも十二分に生きています。机上の勉強も大事ですが、人との交流も大事だと思います。どんな仕事であれ、様々な人間と接する機会があります。その中で、苦手な人とも上手に付合わなければなりません。ですから、様々な考え方の人と接することで自分自身成長し、柔軟な考え方を持てるようになる事は大切だと思います。皆さんもたくさんのファンができるよう自分自身に磨きをかけていきましょう。

生徒たちと共に、夢に向かって

山口県立萩商業高等学校勤務　**住友　優子**（2003年大学院修了）

かつて祖母の学んだ大学に、縁あって学部４年間、大学院２年間お世話になりました。下関から電車通学を続ける中で、春には満開の桜に心癒され、冬にはしんしんと降る雪の冷たさを感じながら学んだ６年間が、懐かしく思い起こされます。共にそれぞれの目的に向かって歩んだ仲間や足しげく通った図書館。何にもまして、私の心に深く刻まれているのが、素晴らしい先生方との出会いです。この出会いは、教師になりたいという私の夢を一層育むことになりました。

在学中は、教師への道を一途に目指して参りました。この夢をあきらめることなく努力できたのも、ひとえに母校で教えを受けた先生方に励まされ、精神的な感化を受けたためです。

現在、教師の職を得て、その喜びを感じながら、教育活動に携わっています。生徒たちは明るく素直で、日々新たな発見があり、生徒たちから多くのことを学んでいます。こうした教区の営みの中で、大学時代に学んだあらゆることが現在の私を支えてくれているように思えます。

自らが成し遂げたいという目的をもち、その目的に向かって進んでいくために、県大は様々な機会を与えてくれる場だと思います。母校で培った人と人との関わりあいの素晴らしさ、絶えず学び続けることへの意欲と情熱、そして他者を思いやることの大切さを忘れずに、今後も生徒たちと共に、更なる夢に向かって歩んでいきたいと考えています。

GPA制度導入 ―退学勧告も視野に―

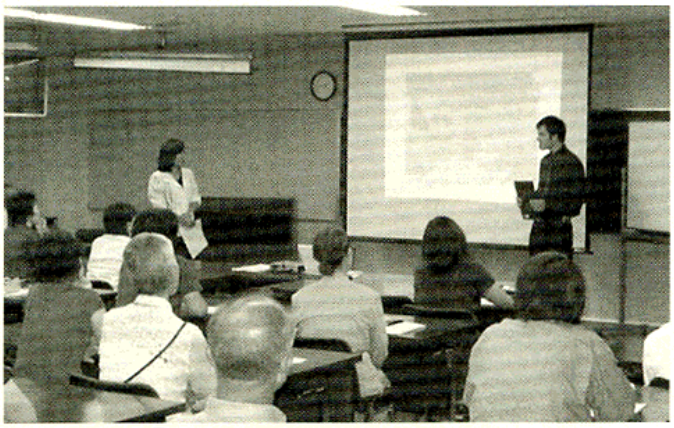
国際文化学部主任　教授　松田　理

平成16年度から本学ではGPAという制度を導入しました。この制度が適用されるのは現在の1年生と2年生です。GPAとはGrade Point Averageの略で、受講科目の成績評価を点数化してとった平均値のことです。秀は4点、優は3点、良は2点、可は1点、不可は0点で、途中放棄した科目は不可として扱われます。この制度の利点は個々の学生の学業成績を客観的に評価することにより、成績不振の学生の早期発見と教育支援が可能となることです。成績不振の目安となるGPAは2・0で、3学期連続してGPAが2・0を下回り、かつ修得単位数が基準に達していない場合には退学勧告を受けることになります。現在の2年生92名については残念ながら8・7%にあたる8名の学生のGPAが2学期連続して2・0を下回っており、指導教員を通じて必要な教育指導・支援を行っているところです。成績不振の学生に話が傾いてしまいましたが、当然ながら勉強熱心で成績優秀な学生も多く、18・5%にあたる17名の学生については2学期平均のGPAが3・0以上という優秀な成績を修めています。各学生の成績につきましては毎年保護者の方々に送付いたしますので、ご子弟の勉学状況を判断される際には以上のような点に特にご注意頂きたいと思います。

平成17年度／国際文化学部公開講座

共通テーマ　「実践！異文化交流」
～いろんな国の人と異文化交流を体験してみませんか?～

●日時場所●	●テーマ及び講師●
6月11日（土）13:30～15:30 徳山保健センター	「異文化交流はこんなに面白い」 助教授 岩野　雅子
6月18日（土）13:30～15:30 徳山保健センター	「イギリスとの交流、そして学びあい」 山口県国際交流員 V.ベントレー
6月25日（土）13:30～15:30 徳山保健センター	「春日局とガーンディー ―時代を超えた異文化交流―」 助教授 鈴木　隆泰
7月 2日（土）13:30～15:30 徳山保健センター	「カナダ―和、美、多様性」 教授 M.ヒギンズ　学生 ランドリー・イブ
7月 9日（土）13:30～15:30 徳山保健センター	「不思議でたまらない日本語:アメリカ編」 助教授 R.シャルコフ
7月16日（土）13:30～15:30 周南市民館	「アジアの人と異文化交流～韓国と日本～」 助教授 金　恵媛



公開講座の一風景

平成16年度 国際文化学部 教育研究充実費 決算報告

（教育充実費は入学時に納入された6万円が財源です）

監査報告　平成17年5月12日

■監査委員
庶務課長　吉岡　進
会計課長　和田　静生　㊞㊞

（単位/円）

歳入決算額	15,268,262
歳出決算額	3,797,518
差引繰越額	11,470,744

歳入の部

費目	歳入額
納入金	5,745,000
繰越金	9,762,952
返納金	△ 240,000
雑収入	310
合計	15,268,262

歳出の部

費目	歳出額
学部運営補助費	211,637
学習資料費	730,808
客員講師費	270,000
オリエーテション費	132,891
語学検定実施費	409,547
演習調査活動支援費	626,780
就職対策費	40,003
卒業論文指導費	425,000
情報機器維持費	238,756
ウェブサイト管理費	153,073
親睦活動費	235,433
文化交流委員会補助費	286,490
予備費	37,100
合計	3,797,518

教員の異動

◎平成17年3月31日付
●定年／教授　片山　弘基（山口育児院院長へ）
　教授　熊本　守雄（尾道大学大学院へ）
●割愛／助教授　李　修京（東京学芸大学へ）
◎平成17年4月1日付
●新任／助教授　金　恵媛
●異動／大学本部　相原　次男（学生部長へ）

～編集後記～

以上、学部の活動をご紹介いたしました。学生も卒業生も教員も国内外を問わず多方面で活躍しています。

山口県立大学は、平成18年度、独立行政法人化します。国際文化学部は、今後とも教育研究の一層の充実と発展を目指し、努力します。

（マリリン・ヒギンズ　安光裕子）